

山形大学生海外派遣プログラム実施報告書

(1) 武山 友里恵 地域教育文化学部地域教育文化学科異文化交流コース 1年

(2) 中国・延辺大学 平成27年度3月14日から平成27年度3月28日まで

(3) 日本語教室での指導内容

活動内容は、おもに日本の文化を日本語で伝えることでした。各クラスによって日本語のレベルが異なるため、様々な内容を用意して授業に臨みました。例として、日本語中級1年生のクラスには日本の伝統文化やアニメの紹介をし、初級クラスにはゲームを通して単語を覚えてもらうように工夫しました。また、会話練習を通して、簡単なあいさつ表現の定着を目標に行い、理解を深めることができましたと思います。日本語上級の3年生のクラスでは、授業名が「観光日本語」だったため、日本の観光地を紹介しました。その後、日本で行きたい観光名所というお題でグループワークをしてもらい各班に発表をしてもらいました。一人一人が違う意見を持ち、行きたい場所や理由について、予想を上回る長文で発表してくれたため、私もクラスの学生も勉強になったと感じます。



その他に、日本語学科でない生徒が在籍する日本語教室もありました。その教室では、大学院生の方に通訳をしてもらいながら、日本語の教科書を使用して会話の練習をしました。

(4) 日本語教室以外での現地での交流活動

授業は一日に多くて二回だったため、ほとんどの時間が自由時間でした。その自由時間の中で、日本語教室で知り合った学生と昼食をともにし、買い物に連れていってもらいました。また、キンボールというスポーツをして汗を流しました。そのほかに日本語コーナーというサークルを通して、中国人学生と一緒に活動をしました。休日は現地学生に延吉内を案内してもらい、様々な



観光名所を訪れました。観光地では図門（中朝国境付近）や帽子山に連れてってもらいました。図門は、私が日本で見聞きして想像していた北朝鮮の風景とは全く異なり、自分の目で確かめることの大切さを改めて知ることができたと思いました。帽子山は延吉の街を一望できる唯一の山で有名です。頂上に到達するまで一苦勞でしたが、晴天に恵まれ美しい自然や町並みを見ることができました。毎日が刺激の連続で貴重な経験をする事ができたと感じます。また、自身の英語・中国語のレベルを改めて知り、これからも継続して学習していこうと思いました。

（５） プログラムに参加した感想

素直に楽しかったです。私は一人で渡航したため不安はありましたが、現地の方々の気遣いや優しさを肌で感じ、渡航前の不安がなくなり、毎日楽しく過ごせました。生活面においては生活の仕方や授業の時間帯が異なるなど、違いがあり戸惑ったこともありましたが、延辺の習慣や文化を受け入れ、その土地のルールに従って行動できたと思います。その点で、適応力が少しでも身についたと感じているので、一人で参加して良かったと感じます。授業だけでなく、スポーツにも打ち込み、充実した二週間を過ごすことができました。ぜひ、来年はさらに期間を延ばし、延辺大学に興味のある山形大学生とともに参加できればと思います。



（６） 自分の目標の達成度や努力した経緯

私の学生大使としての目標は、教壇に立って90分間の授業をこなすことでした。授業をすること自体が初めてで、今までにないくらい緊張しました。最初の頃は、90分間授業をすることができず、早く終わってしまいました。しかし、授業を重ねるにつれて、授業の楽しさや達成感を味わえることができ、授業時間も伸ばすことができたので良かったと思います。

努力した点は、なるべく授業中に沈黙をつくらないようにしたこと。一回授業が止まってしまうと、学生がつまらなくなってしまうだけでなく、私自身が焦って戸惑ってしまうので、質問やグループワークを取り入れることで対応しました。また、学生が興味を持ってもらえるような話題やニュースを取り入れて授業をしました。

(7) 今後の展望

今後は、この経験を教育実習に生かしたいと思います。日本人学生と外国人学生に教えることにおいて、言語の違いはありますが、教えることに変わりはありません。今回感じた、教えることの楽しさや達成感を忘れないようにしたいと思います。そして、将来的に日本語教師を目指すことを考えることができ、職業選択の幅が広がったように感じます。また、今回反省として、授業の準備不足が浮き彫りになりました。準備を念入りに行えば行うほど、自身の頭に授業全体図を描くことができ、余裕ができるということを知りました。ぜひ、今後の学習で生かしたいです。

